

原 著

成人・高齢者へのう蝕予防対策・フッ化物利用に関する 病院ヘルスケアスタッフの知識、意識および実施の状況

晴佐久 悟¹⁾ 吉田 理恵¹⁾ 秋永 和之¹⁾ 内田 莊平¹⁾
窪田 恵子¹⁾ 荒川 浩久²⁾ 眞木 吉信³⁾

概要：病院ヘルスケアスタッフである福岡県内2病院の看護職、介護職およびリハビリ職 374 人を対象に成人・高齢者う蝕予防対策、ならびにフッ化物利用に関する知識、意識および実施状況を調査し、それらの現状・問題点を明らかにすることを目的として質問紙調査を実施した。

回収できた 321 人（回収率 85.8%）のデータを分析した結果、大多数が成人・高齢者のう蝕に関する知識を有していた。フッ化物配合歯磨剤の認知率は 80%以上であったが、フッ化物洗口、水道水フッ化イオンおよびフッ化ジアンミン銀塗布の認知率は、それぞれ 41.5%、12.8% および 9.4% であった。

成人・高齢者のう蝕予防対策の実施と歯科医療従事者との連携に関する意識は高かったが、実際に実施しているのは両者ともに半数弱であった。また、口腔ケア時に成人・高齢者にフッ化物を利用している者は 20%未満であったが、希望者を加えると 80%以上になった。

う蝕の知識・予防意識、水道水フッ化イオン・フッ化ジアンミン銀の認知は、成人・高齢者のう蝕予防対策の実施やフッ化物利用の実施と関連していた。

以上より、ヘルスケアスタッフの成人・高齢者のう蝕予防、フッ化物利用および歯科医療従事者との連携をさらに普及するには、う蝕予防の知識に加え、フッ化物応用についての情報提供が優先されると考えられた。

索引用語：う蝕予防、フッ化物応用、看護師、多職種連携、口腔ケア

口腔衛生会誌 68：219-230, 2018

(受付：平成 30 年 5 月 30 日／受理：平成 30 年 6 月 26 日)

緒 言

歯は咀嚼に重要であり、80 歳でも 20 本以上の歯を保有することによって、食生活はほぼ満足すると報告されている¹⁾。そのためわが国では、「生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるように」と 8020 運動が展開されている。近年では、歯の本数と認知症、寿命および健康寿命との関連が明らかにされており^{2,3)}、歯の喪失防止と咀嚼機能の維持は、健康日本 21 の目的の一つである「健康寿命の延伸」に貢献すると考えられている。

う蝕は、歯周病とともに歯を失う二大疾患である⁴⁾。近年、歯の寿命の延伸により、高齢者のう蝕有病者率は増加傾向にある^{*1)}。したがって、歯の寿命の延伸傾向や高齢者の増加により、成人・高齢者のう蝕の問題、予防

対策はますます重要になっていくと考えられる。

フッ化物応用は、1945 年に全身応用として水道水フッ化イオンが開始し、現在では、局所応用としてフッ化物配合歯磨剤、フッ化物洗口およびフッ化物歯面塗布等が世界中で利用されている⁵⁾。わが国では、局所応用法であるフッ化物配合歯磨剤、フッ化物洗口、およびフッ化物歯面塗布が実施されており、主に小児を対象として普及してきた⁶⁾。これらのフッ化物局所応用のう蝕抑制率は 20～80%と高く⁷⁾、システムティックレビューにより、シーラント（小窩裂溝填塞）とともにエビデンスレベルが最も高いう蝕予防手段とされている^{8,9)}。

フッ化物応用は、小児だけではなく、成人・高齢者でのう蝕予防効果も報告されている。例としては、フッ化

¹⁾ 福岡看護大学

²⁾ 神奈川歯科大学

³⁾ 東京歯科大学衛生学講座

^{*1)} 厚生労働省：平成 28 年度歯科疾患実態調査、<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html>（2018 年 5 月 1 日アクセス）。